

顧みられない熱帯病(NTDs)の根絶を目指す議員連盟 提言

令和5年4月

顧みられない熱帯病 (NTDs) の根絶を目指す議員連盟

会長 松本 剛明

- 顧みられない熱帯病 (NTDs : 住血吸虫症、フィラリア症、オンコセルカ症等を含む、熱帯地域、貧困層を中心に蔓延している寄生虫、細菌感染症等。WHO では、20 疾患 (※) を定義。世界で 1 6 億人が感染リスクに曝されている。) は、新型コロナウイルス感染症、マラリア、結核、エイズ等に並び、開発途上国で未だ大きな負荷となっている。

※NTDs20 疾患 (WHO 定義)

ブルーリ潰瘍、シャーガス病、デング熱、メジナ虫症 (ギニア虫感染症)、エキノコックス症 (包虫症)、食物媒介吸虫症、アフリカ睡眠病、リーシュマニア症、ハンセン病、リンパ系フィラリア症、マイセトーマ、糸状虫症 (河川盲目症)、狂犬病、住血吸虫症、土壌伝播寄生虫症 (腸内寄生虫)、条虫症・囊虫症、トラコーマ、イチゴ腫 (風土性トレポネーマ症)、疥癬、ヘビ咬傷

- 2014 年にはデング熱の日本での大流行が確認された。デング熱の国際感染を広めたのはヒトスジシマカと見られるが、気候変動の影響により、ヒトスジシマカの生息北限が南下したこととの関係性も指摘されている。
- NTDs への取り組みを我が国がリードすることは、保健医療のみならず経済・外交上の意義が極めて高く、国連SDGsターゲット3. 3に明記される「2030年までのNTDs根絶」に向け、世界の健康安全保障に関する我が国の貢献を示すものとなる。
- さらに、気候変動等の影響も踏まえ、NTDsにおけるウイルス性疾患などのパンデミックのリスクが高まっていることから、危機管理上の備えを確かなものとすることができる。
- G7をはじめとした機会を捉え、国際協調の中でのNTDsに対する日本の貢献、プレゼンスの向上に向け、下記提言する。